

「主の十字架と復活による天国の素晴らしさ」ヨハネ11：25 堀田修一 22・5・22
十字架と復活の主を信じると地上で死を迎えても天国に行くことができる驚くべき恵みが与えられますが、天国について、詳しく語られる説教はあまりありません。本日は礼拝の中で天国の恵みを語らせていただきます。もし神の導きで、死が近づいた方が、「天国とはどんな所ですか」と聞かれた時、本日の説教のプリントをご利用なさり希望の福音をお語り下さい。「わたしはよみがえりです、いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです（天国で永遠に生きるのです）」ヨハネ11：25。

I 天国の祝福。1. 天国は神の栄光の国です。天国には神の栄光とキリストの光が満ちあふれています。「都（天国）には、これを照らす太陽もいらない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊（キリスト）が都のあかりだからである」黙示録21：23。神の天と地の創造の後、人の墮落と樂園追放によって、闇が地を覆いましたが、キリストの誕生により、暗黒の世界に神の光が輝いています（マタイ4：16）。天国では「暗闇の力」消え去り、完全な光の世界が実現しています。天国は宝石のように輝いています。天国の「輝きは高価な宝石に似ていて、透き通った碧玉（質が細かく不透明で赤色、緑色の石英の一種）のようであった」黙示録21：11。 2. 天国は命の国。そこに、もはや死はありません。「もはや死もなく、悲しみも、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前ものもが、もはや過ぎ去ったからである」黙21：4。罪、悪、恨み、憎しみ、ねたみ、病、疫病、戦争も一切ない。純粋な愛と正しさの国。なんと素晴らしい！神は、永遠に生きておられ、「今いまし、昔いまし、後の来られる方」（黙1：4）、現在、過去、未来、すべての時間を支配しておられる。永遠の神は、主を信じた瞬間から私たちに、永遠の命を下さり、天国でも永遠に神と共に交わる命が与えられる。天国の大通りの中央を流れているのは、水晶のように輝く「いのちの水の川」であり、その水源は「神と小羊（キリスト）との御座」黙22：1、2。また天国のいのちの川のほとりには、「いのちの木」が生い茂り、豊かな実を結びます。主を信じた者は、「神のパラダイスにあるいのちの木の果実」（黙2：7）を食べて永遠に生きることができ、その名は、小羊（キリスト）の「いのちの書」に記されています（黙21：27）。 3. 天国は安息の国。この地上において私たちは、さまざまな苦しみ、疲れを覚えるが、天国において永遠の安息が与えられる。『今から後、主にあって死ぬ者は幸いである。御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放たれて休むことができる」黙14：13。主は「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい」（マタイ11：28）と言われている。その主イエスが、私たちの罪のために十字架で死なれ、復活し、天国で私たちを待っておられる。 4. 天国は和解の国。天国ではあらゆる憎しみ、悪意、疫病、戦争、戦いが消え去り、赦しと愛と健康に満たされる。キリストにより新しい恵みの世界が開かれている。神が造られた全被造物は完全な平安に満たされる。人と人の争いも国と国の戦争も消え去り、動物も食い合う事はなく仲良くする、全世界の平和が実現する。

II 天国への道。1. 天国は聖なる国。人には罪、悪、汚れがあるため、そのままでは天国に行けない。自分の罪を正直に認め神に告白し、主を自分の罪のために十字架で死なれ復活された救い主、神と信じる人は、地上で罪が赦され、少しづつ聖くされ、死を迎えるとき、天国に迎え入れられ、罪がなくなり、全く聖なる者となる。人は罪があるまま聖い神に直接にお会いするなら、その場で死ぬ。 2. 天国は神の憐れみの国。神の憐れみなくして、罪深い私たちは、天国の門をくぐることはできない。ただ神の憐れみによって、私たち人間は、天国に招き入れられる。「わたしは彼らをあわれまずにはいられない」エレミヤ31：20。人は行ないではなく、ただキリストを信じる信仰によって救われ（ガラテヤ2：16）天国に招き入れられる。「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、

自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇るものがないためです」エペソ2：8，9。 3. 天国は贖いの国。「贖い」とは代価を払って滅びから買い戻されること、すなわち「救い」を意味する。旧約では、人の罪は、動物の血のいけにえにより赦された。新約時代、主イエスは、自らがそのいけにえの小羊となられた。全人類の罪の赦しのために、十字架で、ただ一度だけささげられるべき「神の小羊」だった。それゆえ天国では、ほふられた小羊キリストがほめたたえられる。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です」黙5：12。私たちは、小羊として屠られたキリストの受難と十字架の死、血という代価によって、贖われ（滅びから買い戻され）、罪を赦され聖められ続ける。 4. 天国は復活の国。天国にはキリストの復活の命があふれている。「わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている」黙1：18。天国では、すべての民がキリストのいのちにかされる。天国はキリストの十字架の贖いにより、復活の命を与えられた者たちの国。アダムの罪（原罪）によって、人はエデンの園、楽園から追放されたが、主イエスの救いにより、人は楽園、天国へと招き入れられる。原罪はアダムによりもたらされたが、罪の解決、救いは主イエスによってもたらされる。ローマ5：17-19。

Ⅲ 天国と家族。 1. 天国は私たちの故郷なる国。そこは神の国であり、私たちは神の子ども、神の家族。父なる神は、キリストを信じる者を神の子どもとし、自らを父と呼ぶことを許された。ローマ8：14，15。天国は御父の家であり、キリストはそのひとり子、長男であり（「それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです」ローマ8：29。私たちに、地上にも故郷があり、家族、親族がいる。この世では関係が近いが故に敵意や争いも生まれる。しかし、天の故郷、天国の家族には争いがない。なぜなら、天国の民は、神による完全な聖めで、敵意、憎しみ、ねたみ、悪意が全く消え去り、キリストの愛、赦しと平和だけが満ちているから。私たちの本当の家族、主の血による新しい血縁共同体が待っている。この地上で孤独であっても、天ではうるわしい家族が待っている。愛の父なる神が待っておられる。神の子どもとされた兄弟姉妹が待っている。今、地上の教会でも、兄弟、姉妹と呼び合い、天国の前味を体験している。※証し。この地上では、困難や試練や疫病や戦いがあるが、天を見上げて、永遠の故郷を見つめるとき、そこにすべての希望があることに気づかされる。目指す天に焦点を合わせるなら、地上の歩み、そこで起きる出来事を主に頼って乗り越えることができる。「彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました」ヘブル11：14-16。

Ⅳ 天国は神への賛美、礼拝に満ちあふれた国。 1. 主の再臨により、地上の国は根源的に変革され、新天新地となり、天の国と一つとなる。その時、人間世界だけではなく、自然界も新しくされる。最初の創造の時「神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった」創世記1：31。

しかし人間の犯した罪故に、悪は人の世のみならず、全被造物に及び、地上の楽園、エデンの園は失われた。全被造物は、うめきつつ神による新天新地を待っている。「被造物全体が今に至るまで、ともいうめきともに産みの苦しみをしている」ローマ8：22。主の再臨による新しい天と新しい地（天国）では、次のみことばが実現する「狼と牛はともに草をはみ、獅子は牛のように藁を食べ、蛇はちりを食べ物とし、わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を与えず、そこなわない」イザヤ65：25。

植物

界にも神の平和が満ちあふれる。イザヤ41：18, 19。神が造られた被造物（黙5：13）とすべての国民（神の民。黙7：9）と天使たち（7：11）は父なる神と小羊（キリスト）を喜んで賛美し礼拝する。主の再臨前に天に召された旧約と新約の神の民は、今日も天国で神を賛美しています。感謝！